

# 令和3年度「ひとり1改革運動」

## 5月推進月間改革賞の紹介

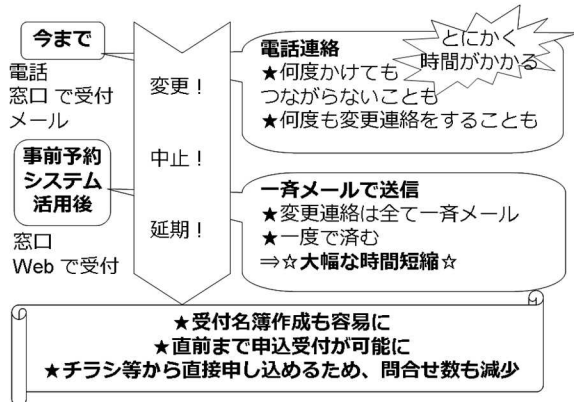
テーマ「ウィズコロナ・アフターコロナに対応し、仕事のやり方を工夫しよう」

### 『電子申請システムの活用による講演会等の申込受付の実施』

【ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課 企画総務班】

今までは、各種講演会において、電話・ミュージアム窓口・メールで申込を受けていたが、コロナ禍で講演会の日程変更や中止が増え、その連絡をする際電話が繋がらないことなどで、連絡に多くの時間を割くことになった。

そこで、受付の際、電話とメールでの対応を取り止め、電子申請システム(チラシのQRコードを読み込む・HPのリンクから)を導入し、講演会の日程変更や中止の連絡をシステム上から行うことで、6時間30分ほどの時間削減効果を得た。また集計の手間も減り、開催日直前まで申込受付が可能になったことから、利用者の満足度向上にもつながった。



#### 【静岡産業大学 小泉 教授 から一言】

コロナ危機は働き方改革とITサービス革命のチャンスです。本件はコロナ禍による講演会の延期等の連絡を迅速化、効率化しただけでなく、申込の段階で返信されることで当日の参加率を高めることにも寄与しており、アフターコロナにおいても効果的な改革成果です。県デジタル戦略課の支援を受けて実現した点で全庁的なデジタル化のモデルとしても評価できます。

### 『協働の底力2 県庁スタディツアーの動画作成』

【人事委員会事務局 職員課 任用班】

県職員を目指す大学生を主な対象者とする県庁スタディツアーは、例年、対面により実施してきたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、県庁見学の動画を作成し、HPで公開することとした。例年であれば、県庁内の執務室をはじめ、売店、食堂、危機対策本部などを実際に見学してもらっていたところ、関係する部局の全面的な協力を得て、静岡駅を起点として、あたかも実際に県庁を訪問し、各部局の執務室や見どころを体験するような動画を作成できた。

動画は、たいへん好評であった。加えて、HPで引き続き公開しているため、当日、参加できなかった方々にも疑似体験してもらう機会を提供でき、拡散効果も生じた。



#### 【静岡大学 牛場 准教授 から一言】

コロナ禍によって、対面でのやりとりが制限される中、様々な場面でのデジタル化が進み、特に対面が多い採用活動においては急務と言えます。本事例では、動画に県職員の日常などを織り込むことで、単なる情報提供に留まらず、親近感などのブランド・アフィニティの向上という副次的効果も期待できます。